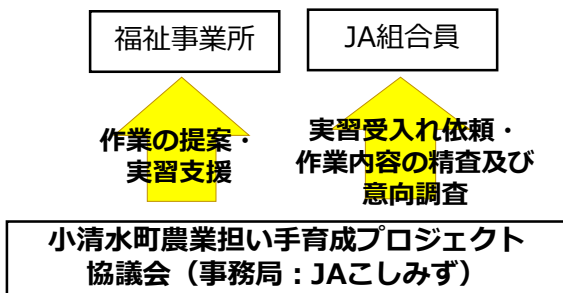


# JAこしみずにおける農福連携の推進体制 ～JA主導によるマッチングの取組～

## ◎取組の経緯（きっかけ）

- 地域の課題である人口減少と農業の労働力不足の解決策を考えたときに農福連携セミナーに参加し、一般社団法人北海道総合研究調査会（略称：HIT）の協力を得ながら可能性を検討したのが取組のきっかけとなった。
- 平成27年から農福連携を含めた農業担い手育成プロジェクトを「小清水町まちひとしごと創生総合戦略」に位置づけ、JAこしみずを事務局として小清水町、社会福祉協議会（社協）、HITなど関係団体で構成された協議会を設立。
- 当時は町内に障がい者就労支援事業所がなかったため、近隣市町村の福祉事業所と協議・協力を得ながら実習を開始。

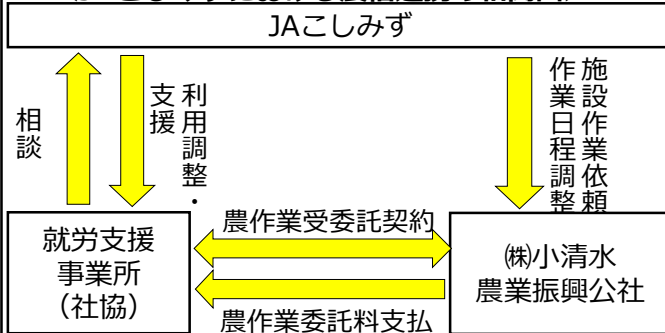
### <農福連携取組体制>



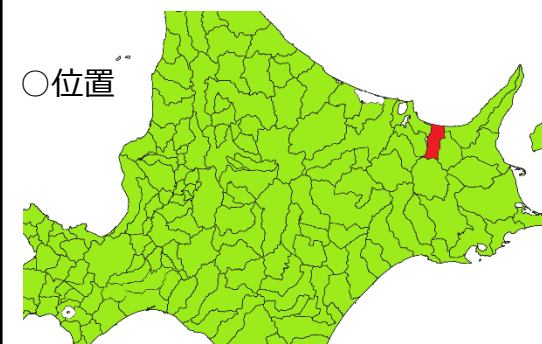
## ◎取組内容

- ◆ **福祉部会の設置**（平成27年）  
農福連携に関わるJA、HIT、町、社協、オホーツク障がい者就業・生活支援センター、網走養護学校による福祉部会を協議会内に設置し、農福連携の実現に向け具体的な協議を実施。
- ◆ **小清水町農福連携セミナーの開催**（平成29年）  
小清水町内における農福連携の理解促進を目的とした「小清水町農福連携セミナー」を開催。
- ◆ **就労支援事業所とのマッチング**（令和元年）  
町内に新たにできた「障がい者等の就労支援事業所」と（株）小清水農業振興公社の連携をJAがサポートし、公社のほ場などで農作業などを実施している。

### <JAこしみずにおける農福連携の相関図>



## 地域の概略



- 位置
- 農業データ  
経営形態  
小麦、  
ばれいしょ、  
てん菜、  
野菜等
- 福祉データ  
B型福祉事業所  
1か所  
※令和4年12月31日現在



～アスパラ収穫作業～

## ◎成果と課題 □：成果、■：課題

- 農作業の「しごと」を作ることで、障がいのある方が小清水町で生活できる基盤の一つができた。現在、小清水町農業の担い手として活躍している。
- 福祉の視点で作業の判断基準の明確化やマニュアルの作成が行われ、農作業現場が誰にとっても働きやすい環境となった。また、効率的に作業を組み立てる工夫が行われるようになった。
- 作業する時間や日ごとに人が変わるため、誰でも作業ができる環境を整える必要がある。
- 雇用の創出を取り進めてきたが、障がいのある方が生活できるグループホームなどの生活環境の整備が必要。